

令和元年5月15日現在

機関番号：34437

研究種目：研究活動スタート支援

研究期間：2017～2018

課題番号：17H07274

研究課題名（和文）CLILを活用した小中学校の学びを繋ぐモデルカリキュラムの構築

研究課題名（英文）Construction of a Model Curriculum Connecting Elementary and Junior High School Instruction Using the CLIL Method

研究代表者

伊藤 由紀子（Ito, Yukiko）

大阪成蹊大学・マネジメント学部・講師

研究者番号：20804826

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 1,300,000円

研究成果の概要（和文）：本研究の目的は、CLILに基づいた指導のモデルを提案し、現場の教員がCLIL授業の参考にできるような教材集を作成すること、およびCLILの指導法に関する教員養成プログラムモデルを進めていくことである。その結果、授業を通して、英語と文化体験、文化遺産について学ぶことを目指した実践を重ね、児童・生徒に効果的なCLIL授業を行うことができた。また、教員研修会の指導助言・講師を通して、CLIL授業づくりに興味・関心を抱く教員への支援ができた。

研究成果の学術的意義や社会的意義

実践を積み重ねることで、日本の伝統工芸・伝統文化を扱ったCLILの授業づくりのモデルを示し、現場の教員がCLIL授業を行う際の参考になるCLIL教材集を刊行することができた。また、CLIL教員養成に関して、CLILに対する現場の教員の期待や不安を明確にし、小中学校の教員が一人で指導できるようになるための、教員養成プログラムモデルを構築することができた。本研究成果は小中学校における教科連携授業実践の資料の蓄積となり、またCLILに興味・関心を抱く教員の助けとなり、社会的にも意義が深いと考える。

研究成果の概要（英文）：The purpose of this research is to propose a teaching model based on the CLIL Method, to gather CLIL teaching materials that teachers in the field can use as a reference, and to promote a teacher training program model for CLIL teachers. As a result, effective CLIL classes were performed for children and students aimed at learning about English, cultural heritage and gaining cultural experiences. In addition, teachers were given instruction and advice in creating CLIL classes through teacher training seminars.

研究分野：外国語教育

キーワード：CLIL 英語教育法 異文化理解 小中連携 伝統文化 伝統工芸

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19、CK - 19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

申請者は英語と異文化を繋いだ指導を通して、生徒が外国の文化および日本の文化についての理解を深めることの意義、それを教える教員がグローバルな視点を有していることの重要性について考察してきた。英語はコミュニケーションのツールであり、外国人と接する中で、英語で会話するだけでなく、日本文化を英語で発信できる力も同時に求められている。グローバル社会において、英語を学ぶ目的は、単に英語力を身につけることではない。自国の文化(思想、社会風習等を含む)を英語で発信でき、かつ他国の文化を理解し、それを受け入れようとする寛容な態度を身につけることこそが求められている。そのような視点で英語教育を実施できる人材の育成が急務の課題である。

本研究では英語を使って他教科を指導する教科連携の指導法である **CLIL** に着目する。**CLIL** とは、学習と教授において、第二言語と学習内容の両方に焦点が当てられた指導法である。しかし、**CLIL** 授業を小学校・中学校および社会教育として、取り組みを行っている例は少ない。今後小学校英語が必修化していく中で、その実践法や効果の測定に関する研究を進めていく計画であった。

2. 研究の目的

本研究では、以下の二つの目的で、英語と他教科を同時に扱う **CLIL** (内容言語統合型学習) を活用した小中学校の学びを繋ぐモデルカリキュラムの構築をめざす。

(1) **CLIL** に基づいた指導を提案し、モデルカリキュラムを構築する。現場の教員が **CLIL** 授業を活用するにあたり、参考にできるような **CLIL** 指導案集・教材集・CD を作成する。

(2) (1) の成果をまとめ、近年注目されている **CLIL** をより効果的に広めるため、小中学校の教員を対象に、自らの授業を振り返りながら、「往還型」で進めていく、**CLIL** の指導法に関する教員養成プログラムモデルを構築する。

申請者はこれまで、米国の学校との英文手紙交換や **CLIL** で藍染など、英語と異文化を繋いだ指導を行ってきており、本研究の最終目的は、英語を通して異文化および自国の文化についての理解を深めることのできる生徒を育成できる指導者養成をめざすことである。

3. 研究の方法

本研究は、2年間の計画で、以下の流れで行った。

【29年度】

(1) 効果的な **CLIL** の実践法についてまとめるために、申請者がこれまでに取り組んできた **CLIL** の実践、新しく取り組む授業実践についての効果検証を行うとともに、他の事例についても、先駆的な取り組みを行っている国内外の学校や施設の訪問、研究会等での資料・情報収集を行う。

(2) それらの研究をもとに日本における **CLIL** 授業の在り方を検討し、**CLIL** 授業のモデルカリキュラムを構築する。

【30年度】

(1) 1年目に作成したモデルカリキュラムを修正しながら授業を計画・実践する。

(2) 小中学校の教員と「往還型の教員養成」を行い、実践で得たデータを整理し、分析した上で、教員研修プログラムモデルの構築をめざす。研究成果は国内学会、国際学会での発表を行うとともに、**CLIL** 指導案集・教材集・CD を作成し、現場の教員に広く公表する。

4. 研究成果

目的に沿って、2年間で、小学校2校、中学校2校、学童保育1校(2回)、大学1校においてCLIL授業実践を行った。それぞれの学校の教員とともに、日本の伝統文化・伝統工芸に着目し、授業を通して英語と文化体験、文化遺産について学ぶことを目指した実践を重ねた。

(1)国内外のCLIL実践の実態把握および実践の視察

2018年夏に訪問した、CLILを実践している教育機関について、以下の2校について記す。

Washington Middle School

公立の中学校であるこのワシントン中学校では、日系の教員による日本文化についての授業が行われていた(図1)。この授業では、日本について学ぶことがねらいであるが、同時に日本語と英語のスキルも上達させることも目標にしているCLILの授業のひとつである。内容は、日本の言葉、習慣、教育制度、政治と幅広い。授業では、俳句について概要と歴史を学び、実際に自分で俳句を作成するというものであった。生徒達は難しいながらも熱心に取り組んでいた。

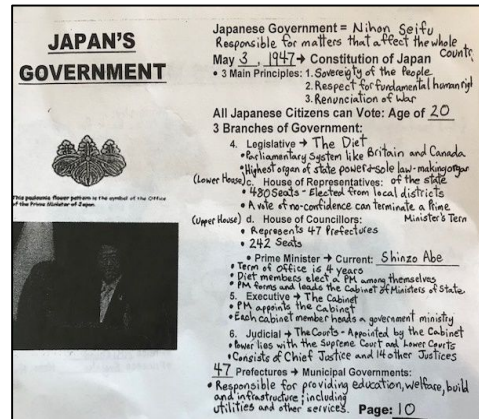


図1 日本語と日本文化の授業教材例

Mckinley High School

公立高校であるマッキンリー高校では、外国語の授業が卒業要件の一つになっているため、全ての生徒が第二外国語を学んでいる。ここではスペイン語と日本語は人気がある。日本の外国語授業と比較すると、授業の目標やコンセプトが大きく違う。日本では、英語の授業のゴールは、英語が聞ける、書けるといったスキルの習得が中心で、言語の背景にある文化に少し触れながら指導していくことが多い。この授業では、まず、その言語が話されている国について広く学ぶことから始まる。地図、生活様式、食生活、衣生活といった文化全般を学びながら、しだいに語学を身に付けていくといった流れである。内容重視であり、語学は、それらを身に付けるためのツールである。これも文化と言語を統合して学ぶCLILの形態であるといえる。

また、CLILは主にヨーロッパ各国で普及しており、スペイン、ノルウェー、フランス、フィンランドなどの実践について、文献資料やインタビュー資料を中心に調査を行った。

(2)CLIL授業のモデルカリキュラムを作成し、実際に授業で実践を行う。

本研究の核となるCLIL授業実践は、6授業実施した。

- ・公立小学校5、6年生「CLILで奈良うちわづくりを体験」
- ・公立小学校6年生「CLILで名画の鑑賞と和紙のちぎり絵」
- ・公立小学校6年生、中学校1年生「CLILで藍染を体験」
- ・公立中学校2年生「CLILでバスケットボール」
- ・公立小学校学童保育「CLILで理科(水と色の実験)」
- ・公立小学校学童保育「CLILで折り紙」「英語絵本」



図2 奈良うちわの授業の様子

図2は、奈良県の公立小学校で、奈良うちわという伝統工芸品について、歴史や製造方法、後継者不足という課題など様々な観点から迫り、実際に児童が奈良うちわづくりを体験する授業である。授業は全て英語で進められたが、児童は、英語で話されていることをそれほど気に留めることなく、自然に授業に参加できたということがわか

- ・一人で全て行う不安がある。→複数で取り組むと良い。
- ・小学校や英語科以外の教員は英語力に関する不安を抱えている。→英語が得意でなくても、授業で使う英語を想定した練習で、自信を持って臨むことができるのではないかな。
- ・他教科の教員とのコミュニケーションが大切。

N o	S C	Text	<1> focused words from within the text	<2> words outside of the text	<3> words explain the words in 1,2	<4> themes and constructs
		What is your opinion of the effectiveness of CLIL and the problems students and teachers face with CLIL lessons?				
		[Student's outcomes and issues]				
2	E	Children are listening carefully to what they will do today. They are listening as well as they do in other classes. My students are thinking "I must listen properly."	listening well as in other classes	listen pay attention	listening attitude	Listen to someone carefully
12	J	Students who are good at physical education enjoy P.E. classes, but students who are not good at exercising also enjoyed the CLIL lesson. Usually the two groups do not get the same enjoyment out of a P.E. lesson, but I felt that the CLIL P.E. lesson was effective for both groups.	both groups were effective	Academic ability, memory, exercise	effective for everyone	utilize everyone's strengths
17	H	The response was beyond expectation and was interesting. The number of questions asked by the students increased.	The number of questions in the class has increased	motivation	learn more	energetic atmosphere
		[Teacher's outcomes and issues]				
19	E	I became able to plan classes constructively. I noticed that I did the same thing in other classes. I do not think there was any difference because I was doing CLIL.	planned classes constructively did the same thing in other classes	class management teaching plan	lesson plan	no difference from other lessons
24	J	Although Teacher Talk was not difficult if prepared enough, it was difficult for me to answer in English when asked a question. I had not prepared for. I thought that a teacher who could respond flexibly would be successful.	type that can respond flexibly	flexible English proficiency	communication skills	flexibility
26	H	I can learn the content and teaching method of other subjects. That was helpful. Learning, knowledge and interest expanded.	teaching methods. That was helpful.	Teaching methods of other subjects	learning, interests, knowledge	Learn from other subjects

表 1 教員インタビューの SCAT 分析の一部

(4)CLIL 教材集の作成・出版

本研究では、授業実践に加えて、これまでの研究成果をまとめ、現場の教員が CLIL 授業を行う際の参考になる CLIL 教材集を刊行することを目的にしており、大修館書店より、2019 年夏に出版されることが決定している。

< 引用文献 >

伊藤由紀子他、ハワイの文化・言語教育、2019、大阪成蹊大学紀要第 5 号、55-64.

Yukiko Ito, CLIL in Practice in Japanese Elementary Classrooms: An Analysis of the effectiveness of a CLIL Lesson in Japanese Traditional Crafts, 2018, English Language Teaching Vol 11, No9, Canadian Center of Science and Education 59-67.

伊藤由紀子、公立小学校における日本の伝統工芸の CLIL 授業実践 名画の鑑賞と和紙のちぎり絵の学習を通して、2019、大阪教育大学実践学校教育研究 第 21 号 1-10.

Y. Ito 他、A Study on the Expectations and Anxiety of Elementary School, Junior High School, and High School Teachers Working on CLIL, 2019, The Journal of the Japan CLIL Pedagogy Association (JJCLIL) 2018, 156-174.

5 . 主な発表論文等

[雑誌論文](計 14 件)

Y. Ito, H. Nakata, A Study on the Expectations and Anxiety of Elementary School, Junior High School, and High School Teachers Working on CLIL, 2019, The Journal of the Japan

CLIL Pedagogy Association, 1 (JJCLIL), 156-174. (査読有)

坂井純子・伊藤由紀子・佐々木緑,ハワイの文化・言語教育,2019,大阪成蹊大学紀要第 5号,55-64.

伊藤由紀子,公立小学校における日本の伝統工芸の CLIL 授業実践—名画の鑑賞と和紙のちぎり絵の学習を通して—,2019,大阪教育大学実践学校教育研究 第 21 号 1-10.

K.Kashiwagi, Y. Ito, EFL Learner's Grammatical Awareness through Accumulating Formulaic Sequences of Morphological Structure(-ing), 2018,English Language Teaching Vol 10, No11, Canadian Center of Science and Education 60-75 (査読有)

伊藤由紀子,感覚器官とうま味の CLIL (内容言語統合型学習) を通して得られる小・中学生の異文化に対する学びについての考察,2018 大阪教育大学実践学校教育研究,20,9-18

K.Kashiwagi, S. Lee, and Y. Ito, The Effectiveness of Formulaic Sequences on Acquisition of the English Passive Voice: Using Dictogloss Tasks in Form-Focused Instruction, 2018, The 2018 Hawaii International Conference on Education (the 16th Annual Conference) Proceedings Publication. <http://www.hiceducation.org> (ISSN#1541-5880) 167-197

伊藤由紀子・坂井純子・佐々木緑,ヨーロッパの英語教育事情,2018,大阪成蹊大学紀要第 4 号 23-34

Yukiko Ito, CLIL in Practice in Japanese Elementary Classrooms: An Analysis of the effectiveness of a CLIL Lesson in Japanese Traditional Crafts, 2018, English Language Teaching Vol 11, No9, 2018, Canadian Center of Science and Education 59-67. (査読有) doi: 10.5539/elt.v11n9p59

伊藤由紀子,日本の伝統文化・伝統工芸を取り入れた CLIL 授業の提案,2018,中部地区英語教育学会紀要 48, 113-120. (査読有)

柏木賀津子・村上加代子・山野有紀・伊藤由紀子・李静香・森田琢也,言語習得からみる小中連携の英語指導 文の仕組みへの気づき・音声から文字へ・CLIL ,2018,中部地区英語教育学会課題別研究プロジェクト 2016 年-2017 年報告書

[学会発表](計 5 件)

ITO Yukiko 他, 2018, 「The Effectiveness of Formulaic Sequences on Acquisition of the English Passive Voice: Using Dictogloss Tasks in Form-Focused Instruction」 The 2018 Hawaii International Conference on Education Conference

伊藤由紀子,2018「古都奈良の伝統工芸に取り組む CLIL 授業実践とその効果—公立小学校における「奈良うちわ」づくりを通して—」第 48 回中部地区英語教育学会静岡大会

伊藤由紀子・中田葉月,2018「CLIL に取り組む小中高の教員の期待と不安についての一考察」日本 CLIL 教育学会 第 1 回大会

伊藤由紀子他,2018「小中高の英語と CLIL—思考力と 4 領域 5 技能統合への Track—」第 44 回全国英語教育学会京都研究大会

伊藤由紀子他,2017「英語と他教科のつながりを重視した CLIL 指導法の研究—英語による伝統工芸の指導をとおして—」第 43 回全国英語教育学会島根研究大会

[図書](計 1 件)

伊藤由紀子他,大修館書店,はじめての CLIL 英語授業づくり (仮題) 2019 年夏新刊予定